

● 準グランプリ

「…それでも、 やっぱ静岡が好き。」

時森良雄（エイエイピー 浜松支店）

C：長井絵里子 D：榎本 礼 P：工藤隆蔵

【作品コンセプト】「イケてないし、タイプじゃないのに、なぜこの人のことが気になるんだろう」…人を好きになる時って、理由がわからなかったことはありませんでしたか？ 本物の恋愛とは理由を並べて好きになるものではありません。むしろ逆だと思います。本テーマの“静岡LOVE”も、こうした恋愛のアプローチを取り込み、静岡の嫌なところ、田舎なところを並べてみました。もっと不満はあるけれど、静岡県民の多くは「それでも、やっぱ静岡が好き」なんだと思います。その愛が本物であるから…。

繁華街 ちやうと抜けると何も無い。
王国ではどサツカー 強くない。
方言 じゃなく、標準語のつもり。
女子でも車がないと生活できない。
首都圏就職が不利だ。
静岡VS浜松論争でムキになる。
いまだに、みかん生産が日本一だと思ってる。
民放が4局 しか入らない。
朝の自転車ラッシュは中国並み。
ドームツアーは素通りする。
富士山 は静岡のものだと思ってる。
のぞみ がめつたに停まらない。
おしやれなカフェは、いまだに緊張。
桜海老 が苦手な人、けっこう多い。
デートは、ジャスコ。
アルタ前 でね…って言ってみよう。
夜9時過ぎると街が真っ暗。
地下道を地下鉄と間違えられる。
演劇 を最後に見たのは文化祭だ。

SHIZUOKA
LOVE

…それでも、やっぱ静岡が好き。

…というキミが好き。